

令和6年度

かほく市総合教育会議
議 事 録

令和6年12月20日

議 事 録

令和6年度 かほく市総合教育会議議事録	
招集年月日	令和6年12月20日（金）
招集の場所	かほく市役所 302会議室
開 会	令和6年12月20日（木） 午後1時53分宣告
出席者	市 長 油 野 和一郎
	教育長 山 越 充
	教育長職務代理者 鮎 野 武 利
	教育委員 長 柄 悦 子
	教育委員 諸 井 幸 子
	教育委員 竹 中 健 司
事務局	教育部長 山 田 義 幸
	学校教育課長 山 川 忠 一
	生涯学習課長 本 出 美 和
	スポーツ文化課長 北 井 淳之輔
	学校教育課参事 能 村 忠 由
	学校教育課主事 油 野 真 佑
協議・調整事項	1) スクールバスの区域の拡大について 2) 部活動地域移行の実施について

開 会

【山田教育部長】

令和 6 年度かほく市総合教育会議を開催します。
まず初めに、油野市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長あいさつ

【油野市長】

皆さん、ご多用の中総合教育会議ということで、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また日頃から教育委員としてかほく市の教育行政の推進に大きなお力添えも頂いているわけでございまして、この場をお借り致しましてお礼も申し上げたいと思います。

ご承知のとおり能登半島地震から約 1 年が経とうとしているところでございます。奥能登の方では甚大な被害が出たところでもありますけれども、ご承知のとおりかほく市でも大きな被害も出ているところでございまして、これまで半壊以上、要は公費解体が出来る半壊以上が家屋で 245 件、それから工場倉庫で 234 件で合計 489 件、半壊以上という、こういう状況でございます。1 週間前に 1 件だけ半壊以上が増えました。これは大崎地区の方がずっと放ってあって、ようやくここへ来て人に促されて、もし罹災証明ということの申し込みがあって 1 件増えたというこんな状況でいまだにそういう状況もあるということでございます。

解体申し込みが 162 件、201 棟の解体申し込みが今のところあります。

毎週少しずつ増えていきますけれども、その 201 棟のうちの 101 棟が解体済みという半分を超えた状況でございます。

これからもしっかりそういったこと取り組まなきゃいけないというふうに思ってますけれども、ただ、大崎のご存じの通り、液状化で、地面も最大で 3.1 メーターずれている。

この前、中日新聞にも大きく一面に、境界が定まらないで工事もできないという、こういう記事も出てたところでございます。

まさに、境界を確定するにも、隣同士で話し合いしたり、市も今、地籍調査事業で取り組みしっかり境界を確定していきたいと思ってます。ただ、これの確定についても、少なくとも 4～5 年はかかるということでございますし、また液状化対策、これについても、皆さん、新聞でかほく市と内灘町合わせて 800 億という、こういう記事が出て、びっくりされたこともあったかと思います。

それがかほく市が 200 億、内灘町で 600 億ということで、ちょうど家屋の 3 倍、面積も、かほく市は 44 ヘクタール、内灘は 126 ヘクタールということで、ちょうど 3 倍近くになり、また、その液状化対策の最大、地盤改良工事という、これをやると、かほく市は 200 億、内灘町は 600 億という、こんな数字も出されております。

ただ、地下水位低下工法という、この工法だと、かほく市は 90 億ぐらいで済むっておかしいですけども、90 億ぐらいだろうという、こういうことです。ただ国が半分、かほ

く市が半分出さなきゃいけない、その半分は全部借金することができてそのうちの 95% が、交付税算入されますんで実質的には、かほく市が 90 億かかったとして 2 億 2500 万がかほく市の負担というこんな状況です。

それでも、2 億 2500 万っていうのは大変、大きい数字でありますけども、こういったことで、ただ、こういう液状化対策もまず実証実験して、そうしないと、地盤が低下するかどうかこれもわからない状況ですんで、こういったことも、約 10 年近くかかると言われてます。このように、期間も費用も莫大なものになるというこんな状況ではありますけれども、この震災からの復旧復興、これは最優先に取り組まなきゃいけないというふうに思ってますし、また、かほく市の最重要課題と、いうふうにとらえておりますんで、皆さんにはこういったことも頭に入れておいていただいて、また今後とものご協力もよろしくお願いを申し上げたいと思います。

今はご承知の通り、3 中学校の体育館について、空調を整備しているところでございます。また、小学校についても、補助の申し込みをしております、確定しました順番に、6 つの小学校も全部、空調に取り組みたいというふうにも思っているところでございます。

これからも、とにかく子供たちのいろんな環境、しっかり取り組まなきゃいけない、その思いで、ずっと私もかほく市誕生以来市長を務めさせていただいてますけども、そういった教育環境の整備であったり、こういった子育て支援、これ、大きな柱として取り組んで参りましたんで、今後とも、しっかり取り組みたいというふうに思ってますんで、皆さん方の、今後とものご理解、ご協力よろしくお願いを申し上げたいと思います。

今日は、協議事項として、スクールバスの区域の拡大について、また、部活動の地域移行の実施についてを、協議、調整事項として、皆さんに審議いただくわけですが、忌憚のないご意見をいただき、また方向性を決めていっていただければと思います。

これからも、皆さん方と、これまでもいろんな形で教育行政については連携してやらせていただいてきましたけども、今後ともしっかりと皆さんと連携して取り組みたいと思っておりますんで、今後とものご支援でありご協力よろしくお願いして、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いします。

【山田教育部長】

かほく市総合教育会議運営要綱第 3 条の規定に基づき、会議の議長は教育長となります。

ここからの議事進行は、議長である山越教育長にお願いする。

議事録署名委員の指名

【山越議長（教育長）】

議事録の署名について油野市長、教育委員からは粕野教育長職務代理者をお願いする。

協議・調整事項

(1) スクールバスの区域拡大について

【山越議長】

協議・調整事項に入ります。

「スクールバスの区域拡大について」学校教育課より説明を求める。

【山川学校教育課長】

(資料により、スクールバスの区域拡大について説明。)

【山越議長】

今まで合併以来、このスクールバスについては、今課長の説明があった以外にもたくさんさんの区、或いは町会から、区域のことだけではなくて、バス停の増設とか、いろんな要望ありましたが、それについては、ほぼ、この現行基準の集落の、概ねその重心地域から 2km 以上で集落単位でということで、多分合併してから拡大したのは、学園台だけです。

そこをある意味頑なに教育委員会としても、守り続けてきましたけども、今説明があったように、郊外に宅地化がどんどん進んで、2km を大幅に超える地域が、子供たちがいるということからこんなようなことが 1 つ課題になりました。

特に高松小学校区と金津小学校区ということで、高松小学校区の古宮町だけでなくて多分南町、海側の方は南町の対象になるんだろうと思います。

長柄さん、竹中さん、校区の人として、ご意見いかがでしょうか。

長柄さんどうですか、この考え。

【長柄委員】

結構古宮町は広いので、冬のこととかも考えれば、マイクロバスを増設することはいいことじゃないかなと思います。

やってみないとどういうふうに皆さんからいろいろ意見が聞かれるのかわからないところもあると思いますので、こういう拡大の案で行ってみても、自分はいいかなと思っております。

【竹中委員】

自分も高松で、よく車を走らせてみて、拡大案で、拡充が出てる区域の方は本当に小学校から距離があって、遠いなあというふうに、感じてるんですけども。

今、長柄さんがおっしゃったように冬のこととかもそうですし、通学距離が長くなることで、子供たちの事故のリスクだったり、いろんなことで、そういう若干の事故のリスクとかっていうのは、ついてまわるものかもしれないですけど、距離がそれだけ長くなれば、そういう部分でのリスクを減らすことができるのかなというふうな、考えもあります。

【山越教育長】

私も相当この件についてはほとんどの校区、道なりに走ってきました。

2km というのは意外とたくさんあります。例えば外日角小学校区なんかでも、例えば日和台の一番端っばしとか、自動車学校の前のミネルバの自動車屋さん、あそこも道なりで大体あの辺までで 2km、だから 2km というのは、意外とですね、遠塚の例えば、一番その

自動車学校の前とかでもそうで、2km というのは意外とあります。内日角の一番今宅造してるところなんかでも多分 2km 弱、ただ 2 キロを大幅に超えるというのは今のこの 2 つの区域なのかなということで、提案をしているということになります。

このあたりについて、市長さん、どんなご意見でしょうか。

【油野市長】

今までは頑なに、できるだけ教育長と相談しながら、それでいきましょうということでしたんですけど、こういう転入者がどんどん増えてる中で、子供たちの数もそういう状況で、学園台はまずそういう形で、例外として認めた。

それも、1 つの定住促進策の 1 つとしても、これはそこを採用したわけですし、そういう意味で、子供たちも今そういうことで、厳しい状況があるんならそれはそれで、やれる範囲の中で、検討してみてもいいかなという思いはあります。

【山越教育長】

それではこの件については、制度的なものは、対外的にも周知もしたりしなくちゃいけないんで、これからまたいろいろと自動車とか運転手の準備もあるでしょうし、ただ今の説明で、別に、その拡大するのを、金津を 7 年度から高松を 8 年度からってそんな分ける必要ないと思うけど。

その拡大するっていうのは制度として、別に条例とか規則ではないけども、8 年度なら同時に 8 年度からでいいんじゃないかなと思う。

無理にその 1 つずつ、7 年度から何で高松しないの？といったときに、バスの都合がつかないってそんな物の都合というよりも、制度を更新するのが、8 年度からでもいいんじゃないかなと思います。それと今もうこんな時期なんで、保護者への周知とかも、入学するのに、もう 3 ヶ月前になってそんないきなり新たにでなくてもいいんじゃないかなと思いますけども。その辺また検討してください。

(1) 部活動地域移行の実施について

【山越議長】

「部活動地域移行の実施について」学校教育課より説明を求める。

【山川学校教育課長】

(資料により、部活動地域移行の実施について説明。)

【山越教育長】

先ほどの課長の説明の中で 1 点だけ少し訂正させていただきますけども、国の方針の中で、令和 10 年度までに休日を完全に移行すると言いましたが、実はこれは国は令和 10 年度までに休日を完全移行し、そのあとにまだあって、平日の移行についても順次取り組むというのが、令和 8 年度以降の国の方針として、新たに出されました。

ですから、これまで国は休日のことを中心にした話でしたけども、令和 8 年度から 13 年度の間にいよいよ平日も移行を進めていこうというようなことが示されたということで

す。結構インパクトのあるというかお金の話も今回具体的に出てきました。
この辺りについて、まずは、教育委員さんのご意見をお伺いしたいと思います。

【諸井委員】

保護者の方に、最初、幾らまでなら出せますかっていうアンケートがあったと思うんですけど、そこから見るとやっぱりこの1万3000円っていうのは、高いっていうふうに考えられるのではないかっていうことと、あと1万3000円とかっていうのは、競技問わず一律っていうことで、考えていいですか。

【山川学校教育課長】

1点目の保護者アンケート結果、前の話になりますが、もちろん安ければ安いほどいいって答えがあったんですけど、具体的に申し上げますと、月額1000円未満も含めて月額3000円までなら、いいですよ、払えますよっていう答えを累計すると約65%、6割強の方が、3000円以内なら許容範囲かなというお答えを頂いています。なお、3000円から5000円ぐらいまではいいですよというのは、25%。なので5000円まで、全部累計すると約9割近く、5000円以上でもいいですよというのは9%ほどいしましたが、やっぱり、ほぼ9割がたの方が5000円以内、または65%の方は3000円以内というのがその時の回答でありました。

【山越教育長】

種目ごとに、会費が変わらないのかの返答は

【山田教育部長】

今の1万3000円は、基本的には一律

【山川学校教育課長】

週4回はすべてのこの金額です

【鮎野委員】

1万3000円は結構高いなと感じます。市長さんにお伺いしたいんですけど、この金額が今1万3000円っていう目安で提示されているんですけども、これが幾らかになるかは最終的にはわかりませんが、行政として公費で負担するっていう考えっていうのは、元からあったんでしょうか。

【油野市長】

いや、そんなことは全く、これは国がそういう形で移行、今さっきの説明あったようにそういう話なんで、本来なら、移行するから国はこれだけ援助しますっていう話があってしかるべきなのに、全く、方向だけ決めて、そんなんは、大体がおかしいだろうというのが我々のというか私の思いです。

ただ、そうであっても文句ばかり言うとしても、他のところはそういう形でやって、公費で負担、どれだけするか、かほく市だけお金いっぱいかかるよねってそれじゃ、保護者には申し訳ない。

だからそういう状況の中で、いかに他の市、町がどうするか。ただ、聞くと、うちはま

だ先行してる部分なんで、そこについてはうちの例はまた 1 つの例になる可能性もあるので、そういう中で、それがじゃあ幾らが適当なのか、で、もともとそういう形で大会派遣費とかそういうのは負担してるけど、それを学校の先生方が、働き方改革でそういう形でやれないから、あとは地元で、地域でやってくださいって、それが、そういう形で負担は全部地元でって、それ自身が本来方向性決めたのならそこに必ず、そういう費用ってというのは、かかってくるのは誰でもわかるんで、その手当もしないで、頑張っ

てやってくださいって言われても、実際には厳しいですよ。ただ、そうであっても、しなきゃいけないことは、やむを得ないから、保護者はできるだけお金出したいくないっていうのはこれ当たり前なんで、ただ、市としてもできるだけお金出したいくないというのもこれも当然りの話なんですよ。

だけどそれがどういう形で折り合えるのか、やっぱり保護者の皆さんにとっては負担にならないように、それによってやっぱり子供たちの部活動に取り組むそういう機会が、お金が高いから駄目なんですってそれじゃちょっとかわいそうな部分もあるんで、そういったことも踏まえながら、口で言うのは簡単だけど、本当に難しい問題だというふうに思ってます。

お金ってものは必ずここには絡んできますので、我々にお金の話は何もしないで、国としてその方向を決めましたって言われても、我々行政、首長に対しての、そういうことに対する意見なんてのは、全く、そういうのなしで方向性決めてますよね。

ただ、取り組みをしなきゃいけない方向が決まった以上は、ただ、どれだけかの、国の得意の、交付税にまた算入しますみたいなこと言い出しかねないもんで。

【山越教育長】

この事業は、まだ全国で先進地はないんです。全部モデル事業でやってるレベルの範囲のところ、全国どこ行ってもそうです。

ただその都道府県ごとにはこういうことに対しての考え方の特徴というのはあります。石川県は本当に、実証事業をやってるのが小松、かほく、野々市の市では 3 つだけです。町で言うと穴水しか、だけなんで、本当に石川県、めちゃくちゃ遅れていると。

先進地っていうところもあるんですけどその都道府県でもまだその今と同じようなモデル事業でいくつかモデルでやってるんで大体まだかほくと一緒に、まだ会費取ってないのが多い。だからこれから本格的に皆さんやる。

私も幾つか見てきた中で静岡県なんかは、あそこはもともとサッカーとか、卓球も結構盛んらしくて、水谷とか、伊藤美誠さんとか全部クラブチームらしいんだけど、あそこはね、やっぱり教育長さんは完全に習い事だという感覚で、幾らかはここまで聞きませんでしたけど全額保護者負担であるべきだという考えの自治体が多かったです。

ただそれも、静岡はそういうもとの風土というか、そういうのもあるのかなと思って、私も聞いてきましたけど、確かに今、教育委員さんおっしゃられているように、今まで 2000 円とか 3000 円でやれていたのに、いきなり地域クラブになって 1 万 3000 円とかって言われると、なんかすごいでかい金額だなと感じはすると。

【竹中委員】

ちゃんとしたそういう地域のクラブチームとしての活動として見たら、この月額 1 万 3000 円っていうのは、いろいろな諸経費も込みですけど、多分、安い方なんじゃないか

なという、妥当か、もしくはちょっと安いぐらいの感じかな、うちは正直もうちょっと払ってたので。

【山越教育長】

ちゃんとしたっていうのは、チャンピオンシップ型クラブということでやね。レクレーション型でなくて。

【竹中委員】

そうです。

【油野市長】

竹中さんが言うように、例えばうちの孫がツエーゲン行ってたとかパテオ行ってる子も、沖野慎之介くんみたいな彼らみたいに、ああいう連中は幾らお金かけてでもそういうところへ行きたい、ただ子供たちみんな、親御さんにしたら全部そんな子じゃないんで。

そうするとそれは、幾らなんでも高いよねっていうのが、そこまで求めてない、という、その難しさもあるって本当のことですよ。

だから、サッカーみたいに全然、以前から、私、前の遠田教育長にも河北台中学サッカー部ないから、作れって言っても全く全然反応もなかったという、こういうことで、もちろんそれは、ああいうクラブチームに、子供たちが行って、自分でやとったわけやけど、やっぱその辺のスポーツによって今静岡が出たんで静岡は昔からそういうね、ところと、やっぱりその、全然ちょっと感じが違う。

だから、北井君みたいに、子供のときから剣道やって、でも、ある意味では、中学校の部活といいながら、子供のときからずっと、クラブみたいなもんやよな。私らから見たら。

あれは会費なんかどうなっとるんや。

【北井スポーツ文化課長】

会費は毎月取ってますけど。月 2000 円ぐらいです。

【油野市長】

小学校？ 中学校は部活動か？。

【北井スポーツ文化課長】

はい。

【油野市長】

だからプロのコーチでも雇ってやるようなところと、ちょっと楽しんでやりましょうみたいなのと、それによっても全然違うんだよね。親が求めるものがどこなのかって、それも千差万別でしょ、多分。

【粕野教育長職務代理】

部活動っていうこのキーワードがこう、教育の一環としてっていうイメージがあるの

で、うちはもう完全に移行を早くしてあげて、本当にクラブ、スポーツコミッション中心のクラブチームの団体っていうのを早く立ち上げるっていうことが一番、いいのかなという、これいち早く整備した方が、費用の問題とかも、イメージとかも、我々の教育委員会が今のところ携わってますけど、そうなれば関連することもあまりなくなるでしょうし、早く仕組みができ上がればいいなというふうには思ってます。

【山越教育長】

今紘野さんが言われましたが、この事業っていうのはあくまで部活動の地域移行というお題目の中からスタートしてるもんでどうしてもその地域クラブが、例えばツエーゲンとかF C 湖北とかパレット教室のような感じにはやっぱり一般的に受け取られないというのも現実なので、その辺の何ちというか今がちょうど過渡期。

だからこういう、令和 13 年度あたりまではそういう過渡期なんで、その辺りはなかなか悩ましいところなんです。

ただ先ほど課長の説明の中で、実は令和 6 年度は 3 つのところだけが今年の年度の途中から、一部休日だけクラブ化して、これはモデル事業の中でやっとするから、会費も何も取ってないんですけども、来年度は意外と進むんですよ。

だからもう 8 年度に相当近いような形で進むので来年度のあれももし全部モデル事業として、会費 1 つも取らないということになると、逆に相当、市の負担が大きくなってしまって、そしたら、7 年度取られなかったのに、8 年度取られらんかみたいなことを言われるから、やっぱ 7 年度から少し今議論してるような、やっぱちゃんとしたちゃんとしたっていうのが今言ってる 1 万 3000 円なのか、もし最終的に少しそういう公的資金が入るかわからんけど、やっぱ 7 年度から少なくともやっぱ会費を取らないと駄目であるということはあると思います。確かに、先ほど竹中さんが言われたそのちゃんとしたクラブかどうかちゅうところも非常にやっぱ悩ましいんですけど、多分今スタートしたときは、あんまりちゃんとしとらんわいね、ちゃんとしとらんと言うたら失礼だけど、まず部活動の延長みたいところから徐々に地域クラブへ、例えば、家に帰ったらやっぱ高松のバドミントンなんかは、部活動、クラブが分かれるそうなんです。令和 7 年はとりあえず分かれると。イメージとしてどんなふうに分かれるのか。

【山川学校教育課長】

複数の指導者が確保できますので、本当に上の方を目指していく、より良い高い指導を受ける生徒らと、そこまでは求めない、ある程度楽しみたいという生徒はある程度のグループで分けながらやることも可能であるというふうにします。

【山越教育長】

1 つのモデル的になると思うんですけど、高松地区のバドミントンはそういう形で、指導者の人がそういうふうな、従来の部活型とクラブ型っていうのは分けてやってみると。

まあ、すべてのクラブがそういうちゃんとしたチャンピオン型とレクレーション型が本当に明確に分かれれば、多分チャンピオン型の人には会費が 1 万 3000 円でもある程度納得するんでしょうけど、レクレーションでやってる人達はやっぱ、1 万 3000 円ではっていう話になってくると思う。

【諸井委員】

うちの子はトランポリンだったんですけど、上を目指す方と、レクリエーションでやる子達っていうのが、もうしっかりと分けてて、うちの子は最初レクリエーションで入ったんですけどやっぱり上を目指したいっていうことで、そうなる指導者も変わってくるから、金額も変わってくるっていうそういう体制なので、何かそんなふうなことになるれば一番、本当はそうですよね。

【竹中委員】

1つ質問なんですけど、この平日っていう部分で、活動時間っていうのは、どうなってるんですかね。休日は午前中やったりとか、いろいろできるとは思うんですけど、平日の部分で、今は現状多分部活動なので、学校が終わってから、やってると思うんですけど、地域移行になったときに、指導者の関係等で、その活動時間っていうのは、必ずしもその時間で行わなきゃいけないのか、それとも、また別の時間にずらすようなことも出てくることだと思うんですけどそこら辺ってどうなんですか。

【山川学校教育課長】

これにつきましては、決めてるのは平日2時間、休日3時間で、今現在部活動はもう週4日間で動いてますので、基本的には平日3日間、休日1日間ということをお願いしてます。

その前にご質問ありました時間帯でございますが、時間帯は今の部活動と一緒にしなさいって一切言っていないです。というのは、それにこだわると、おそらくほとんどの競技が、指導者の確保が難しいということになります。

やはり働きながら指導していただくという方が多いので、どうしても4時という時間帯は難しいということで、一応バスケットボールにつきましては来年度の平日を移行するんですが、夜間を予定してるという状況でございます。

【山越教育長】

もう時間も大分来ましたんですけど実は先進地では、地域クラブの運用ガイドラインっていうのをやっぱりしっかり決めてます、平日何日活動とか。

今課長も言った平日3日休日1日っていうのは、今部活動とクラブが併用して走っていくときだから、多分、活動日を同じにしようというのが今、事務局側の考え方だと思います。

でも私は今個人的には、令和8年度以降、もしクラブ化がみんなクラブ化になったら、多分さっきの話でないけどチャンピオン型は、3日と1日ではもの足りなくなって、平日に4日とかしたいチームは必ず出てくると思う。

そこは私は、そうなれば、この平日3日、休日1日にこだわる必要はないと思うんです。

むしろ、今度そうなれば次、3日だけして、1日休日はやらないとか、いろんな選択肢をできるようにしてあげないと、多分そうだったらもう、もしかしたら本当にトップを、目指す子供たちは、私もちょっとよくわからんけど4日じゃちょっと足りないかもしれないね。

【鮎野教育長職務代理者】

金額も上がるってことですよね。

【山越教育長】

そうなれば金額も上がるかもしれんけど、私の言ってるのは、今は部活動と地域クラブがどうしても並行していかんならん時期やから、活動日とか活動時間もやっぱり一緒に合わせて、いかなければいけないんだけど、今地域グループだけになれば、もしかしたらその地域クラブの中で、平日3日休日1日にこだわる必要がなくなってくるときも来るんじゃないかなという思いがあります。

【山越教育長】

それじゃ時間も来ましたんで1時間経ちましたんで実は令和7年度からもうこうした、ある程度スタートしていかなくちゃいけません。この辺りはまた当初予算のこれから編成の中で、また市長さんと財政当局ともいろんな協議しながら市長さんに上げていってください。私も意見を言わせていただきますんで。

ということで、今日の議題になっていた2つの件については、以上です。
もし、その他の件で何かありましたら、この際ですのでお願いいたします。

特にないようですので、ちょうど1時間経ちましたんで。
山田部長、お願いします。

【山田教育】

ありがとうございました。
以上をもちまして、会議を終了させていただきます。

午後2時53分閉会

議長（教育長） 山 越 充

署名（市 長） 油 野 和一郎

署名（教育委員） 鮎 野 武 利